



これでわかる拡散MRI 第3版



編著：青木茂樹
阿部 修
増谷佳孝
高原太郎

学研メディカル秀潤社
2013年9月刊行
B5判 488ページ
定価：本体7,400円＋税

2002年の初版以来、拡散MRIの最も詳しくかつ標準的な教科書として、広く読み継がれてきた本書であるが、2005年の第2版刊行後、8年ぶりの改訂である。序文の冒頭、編者の青木茂樹先生が「お待ちせしました」と述べられているが、まさしくMRIに携わる我々がこぞって待ち望んでいた新版である。

この第3版は、この間の画像医学、MRI技術の長足の進歩を余すところなく取り入れ、大幅な改訂が加えられている。目次構成も大きく変更され、新しい項目が数多く加わると同時に、従来の項目も実にきめ細かく加筆、改訂されている。主な違いを挙げてみる。

- 1) 基礎編では、q-space関連の記載が加わり、tractographyの追跡理論について大幅に加筆されている。それ以外の項目についても、記述が一段と洗練され、新たな図表が加わるなどして、複雑な理論をわかりやすく伝えようとする努力が行間に溢れる。
- 2) 実践編として、tractographyの描き方、各種ソフ

トウェアの使用法など、即戦力として役立つ内容が、旧版よりさらに詳しく具体的に記載されている。

- 3) 約500ページのうち、300ページが臨床に充てられているのは旧版と同様であるが、より多くの疾患、病態について、教科書的な知識から最先端の知見まで、詳述されている。それぞれが1篇のレビュー論文にも値する高水準の内容で、日常診療はもとより、臨床研究の糸口としても役立つ内容である。
- 4) 特に、中枢神経系以外の臓器、疾患への応用が大幅に拡張されており、新しい分野の研究を開拓するために貴重な情報が豊富である。

このような点を中心に、旧版とくらべて情報量は2～3倍にも増えている印象だが、総ページ数は約20ページ増に抑えられている。本文の行間が狭くなり文字数が増えているのも事実だが、これだけの情報をコンパクトにまとめあげた監修者、編集者の力量は特筆すべきところである。

拡散MRIの教科書は、欧米にも大部のものがいくつもあるが、数式ばかりで理解が難しいもの、逆に症例の羅列に終始しているものなど、なかなか良いものがないのが実情である。その中において、本書の内容は傑出しており、日本の画像医学の高い水準を示す1冊でもある。

専攻分野を問わず、MRIの研究、臨床に携わる以上、拡散MRIの知識はいまや必須である。これからMRIを始めようとする入門者から、先進的な研究者まで、いずれにも必ずや役に立つ、まさしく座右の書として、自信をもって推奨する1冊である。

(慶應義塾大学医学部放射線診断科 百島祐貴)

